

## 令和3年度第2回市政懇談会 会議録（要旨）

|   |
|---|
| <b>【日 時】</b> 令和3年4月13日（火） 18時30分 ～ 19時30分   |
| <b>【場 所】</b> 厚東ふれあいセンター   |
| <b>【出席者】</b> ○篠崎市長<br>○地区代表者（6名）<br>厚東地区コミュニティ協議会会長：上原 久幸<br>厚東地区自治会連合会会長：溝上 明<br>厚東小学校学校運営協議会会長：小林 征和<br>NPO法人厚東ネット代表：原野 清正<br>おやじの会会長：浅上 勲<br>厚東地区コミュニティ団体事務局：縄田 隆博<br>○政策広報室長<br>○総合戦略局<br>○事務局（広報広聴課）   |
| <b>【概 要】</b> 1 開会<br>2 参加者自己紹介<br>3 市長あいさつ<br>4 意見交換・懇談<br>5 閉会   |
| <b>【意見交換・懇談】</b><br><b>○「モノトーン KOT02021—2025」について</b><br><b>【厚東地区コミュニティ協議会会長】</b><br>・昨年12月に、住んでよかったと実感できる厚東にするための計画、地域創生計画「モノトーン KOT02021—2025」を作った。<br>・地域の課題は人口減少と高齢化。この状況を変えていくための、「若者が増えること」「住みたい厚東にすること」を柱として計画を作成した。<br>・柱の内容としては、5つ。「1 人が集まる新たな地域づくり」「2 人材を生かした教育、子育ての実現」「3 若者支援のさらなる推進」「4 誰もが活躍できる地域を実現」「5 みんなで作るおもしろい厚東」である。<br>・体制としては、みんなが演出しみんなが主役となって発想し、みんなが総力を結集し、この計画を完結したいと思っている。<br><br><b>○教育と子育てに関する支援について</b><br><b>特認校制度を活用した厚東小児童を増やす支援</b><br><b>【NPO 法人厚東ネット代表】</b><br>・20年前に比べ、厚東小学校の児童は半減している。子どもとその親である若者を増や |

すための地域づくりの骨格は「子どもを厚東地域で育てる」「若い親が安心して厚東地区で子育てできるようにする」「若者が厚東で活躍できる」である。この3つの骨格がつながれば、魅力ある厚東になる。

- ・厚東の魅力の一つが「教育と子育て」。子どもを育てたいと思ってもらえる地域になれば、地区外から若い世代が厚東へ移り住んでくる。
- ・厚東小学校の児童数を増やすために15年間いろいろな取り組みを行ってきた。その一つが特認校制度である。
- ・特認校の魅力を伝え、児童を増やすため、毎年2000部のリーフレットを作り宣伝を続けてきたが、地区の努力にも限界があり、行政の支援がほしい。
- ・特認校制度を利用する子どもたちのために、朝だけでもワゴンバス（通学バス）があると助かる。
- ・特認校制度の北部地域のモデル校、チャレンジ校として、地域とともに行政にも策を講じていただきたい。

#### 【市長】

- ・特認校制度は、もっと活用する余地があると思う。家庭環境などで学校に行くことができない子どもたちに、情報が届いていないと思われるので、いろいろな子育て世代と情報を共有したい。
- ・宇部市で「ご近所SNS マチマチ」というオンライン掲示板を始めたが、特認校制度の情報共有などができると思う。地域の情報を若い世代と共有するのに効果的に活用していきたい。
- ・ワゴンバスについては、地域交通が利用できないか。他県では、施設などに向かう介護バスの活用などの事例があるがいろいろな方法を検討したい

### ○教育と子育てに関する支援について

#### 学童保育ひだまりの環境改善について

##### 【NPO 法人厚東ネット代表】

- ・厚東小学校の児童の大半を預かる学童保育クラブ「ひだまり」で、子どもたちを見守り、子育てのバックアップをしてきた。
- ・子どもたちが利用する空間が狭く、障害を持つ子や体調が悪い子などが仮眠する場所がない。可能な範囲、可能な手法でよいので、利用スペースの拡張をお願いしたい。

##### 【市長】

- ・「ひだまり」の部分拡張については、担当部署と検討したい。

**○「若者支援の更なる推進」(ICTを活用した取り組みに対する支援)について  
デジタル化にも詳しいコーディネーターの配置「情報提供、相談窓口」創設  
ふれあいセンターに設置している機器等活用についての学習機会の充実について**

**【おやじの会会長】**

- ・移住者を増やし、若者を増やすために、地区のICTグループでは、デジタル化をどう活用していくかを検討している。地区の魅力を見つけ、プロモーションビデオを作成する等検討している。
- ・地域活性化の取り組み、今後のデジタルを活用した地域活動等相談できる市の担当者(コーディネーター)の設置を要望したい。
- ・若者を増やすためには、ネット環境は必要である。厚東地区の5G環境整備を推進してほしい。厚東駅前のネット環境整備が整備されるとよい。
- ・センターにあるデジタル機器を市民が活用できる環境を整備してほしい。「うべスタートアップ」のような集まれる場所を確保し、情報発信の基地として活用したい。

**【厚東地区コミュニティ団体事務局長】**

- ・リモート会議等行うために、センターにはデジタル機器が揃っている。それらを活用するために勉強会等を実施してほしい。
- ・ふれあいセンター全体のWi-Fi環境を整備してほしい。

**【市長】**

- ・コーディネーターについては、市の制度を利用して派遣したい。
- ・5Gの整備は、国に要望している。ただ、5Gでなくてもできることがあるので、新しい技術の特性を掴み、市民の生活がよくなるツールを取り入れていきたい。
- ・Wi-Fi環境については、全ふれあいセンターの状況を確認する。
- ・新年度から、地域活動ICT活用支援業務委託で、スマホ、タブレット講座、ホームページ開設、SNSなどのデジタル活用の研修会を開催予定である。ぜひ活用してほしい。

**○「ひとが集まる新たな地域づくり」**

**SNSの活用など北部地域の安心・安全への支援について**

**【厚東地区自治会連合会会長】**

- ・防災体制については、防災スピーカー設置の代わりに、防災伝達手段整備の財政支援をお願いした。その支援により、地域の高齢者にスマートフォンを配布した。スマホの使い方講習会を開催しているが、高齢者の集まる場になるなど良い効果があった。
- ・UIJターンを希望する人が移住しやすいように、受け入れ場所として厚東地区に市営住宅を建ててはどうか。

**【市長】**

- ・地域の実情にあった防災体制は大切である。地震などが起きた時に住民にすぐに情報が伝わり、住民がすぐに避難できる体制が必要。

- ・UIJ ターンについて、コロナ禍でどこでも働くことができる環境や、意識が高まりは、地方にとってチャンスと考える。市営住宅の設置は厳しいかもしれないが、空き家のリノベーションなど他の方法で地域での定住につなげられないか検討したい。

## ○「ひとが集まる新たな地域づくり」

### 農業の近代化支援の充実について

#### 【厚東地区コミュニティ協議会会長】

- ・農業においても高齢化が進み、農業就労者が減ってきている。厚東地区では、二つの農業法人があるが、後継者不足を感じている。後継者育成のために、山口農業大学の卒業生を取り入れながら努力している。
- ・農業を維持していくために、スマート農業を取り入れ、一人当たりの耕作面積を広げていくことが必要。農薬散布用ドローンの導入に対する補助金など、引き続き支援(増額)してほしい。

#### 【市長】

- ・農業では、後継者が少ないことがやはり大きな課題である。農業で家族が養えるかどうかの不安が大きな要素としてあり、これをとりのぞく必要がある。農業で安定的に稼ぐためには、売れるものを作る仕組み、流れが必要。
- ・どういったもの作れば売れるのか、利益が出るのかを見据え、新年度から農林水産業振興計画を策定する。販路先を見据え、利益が出るまでの流れを計画する。その中で課題を見極め、ドローンの購入について補助ができるかを考えさせてほしい。

## ○空き家について

#### 【厚東地区コミュニティ団体事務局長】

- ・空き家のリフォームについて、助成はあるのか。

#### 【市長】

- ・移住者向けのものはある。今、鵜の島地区で移住お試しの家がある。北部版のリフォーム助成などアイデアがあればいただきたい。

#### 【市長】

- ・第5次総合計画の策定にあたり、地域の課題を共有したい。
- ・厚東地区は、将来のあるべき姿を明示されている。
- ・行政の仕事は、住民のありたい姿を実現することだと考えている。お手伝いできることは、力になりたい。